

製品名: CHP2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08779**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	22kDa

抗原情報

遺伝子名	CHP2
別名	CHP2; HCA520; Calcineurin B homologous protein 2; Hepatocellular carcinoma-associated antigen 520
遺伝子 ID	63928.0
SwissProt ID	O43745
免疫原	抗血清はヒト CHP2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

背景

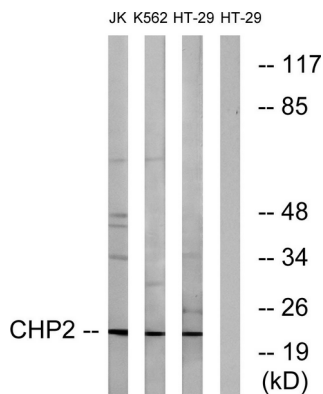
この遺伝子産物は、細胞膜型 Na⁺/H⁺ 交換活性を制御することで細胞 pH を調節する小さなカルシウム結合タンパク質です。このタ

ンパク質はカルシニューリン B と配列相同性を有し、カルシニューリン A (CnA) に結合してそのタンパク質ホスファターゼ活性を刺激し、カルシニューリン/NFAT (活性化 T 細胞核因子) シグナル伝達経路で機能します。CHP サブファミリーの別のメンバーであるカルシニューリン B 相同タンパク質 1 は、15 番染色体上に位置し、カルシニューリン活性を阻害します。パーキンソン病に関連する遺伝子表現型を有します (OMIM:606988)。この遺伝子は当初、腫瘍関連抗原として同定され、以前は肝細胞癌関連抗原 520 と呼ばれていました。[RefSeq 提供、2013 年 7 月],機能:血清非依存的に SLC9A1/NHE1 に結合して活性化し、pH を上昇させて血清欠乏誘発性細胞死から細胞を保護します。、類似性:4つの EF ハンドドメインを含みます。、サブユニット:SLC9A1/NHE1 に結合します。、組織特異性:悪性形質転換細胞で発現しますが、正常組織では検出されません。、

研究分野

MAPK_ERK_成長;MAPK_G_タンパク質;カルシウム;卵母細胞減数分裂;アポトーシス抑制;ミトコンドリアアポトーシス;アポトーシスの概要;WNT;WNT-T 細胞軸索ガイダンス;VEGF;ナチュラル キラー細胞を介した細胞傷害;T 細胞受容体;B 細胞抗原;長期増強;アルツハイマー病;筋萎縮性側索硬化症 (ALS);

画像データ



CHP2 抗体を用いた HT-29、K562、Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



CHP2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析